

まほろば・童話の里 浜田広介記念館

令和五年度 浜田広介生誕一三〇年・没後五〇年記念企画展

一筋の道

童話作家として

「一筋の道」を歩みはじめた広介。

その当時の作品や関連資料を

お楽しみください。



「ひろすけ童話読本」
文教書院

※1



※2

『良友』コドモ社

令和5年

9月13日(水)

11月26日(日)

開館時間 9:00~17:00 (受付16:30まで)
入館料 大人/500円 学生/300円 小・中学生/200円
※団体料金、やまがた子育て応援パスポート割引あり
休館日 月曜日 (ただし9/18、10/9は開館)
ほか 9/12・19、10/10、11/7・24・28・29

まほろば・童話の里
浜田広介記念館

ホームページ <http://hirosuke-kinenkan.jp/>
山形県東置賜郡高畠町大字一本柳2110番地
TEL. 0238-52-3838 / FAX. 0238-52-4588
E-mail hirosuke@town.takahata.yamagata.jp



編集者から作家へ

『椋鳥の夢』 新生社



※3

※1 『ひろすけ童話読本 第1集』大正13年11月15日文教書院発行
『ひろすけ童話読本 第4集』昭和4年1月15日文教書院発行

※2 『良友』大正5年1月1日コドモ社発行

※3 『椋鳥の夢』大正10年8月26日新生社発行

一筋の道 ~編集者から作家へ~

ごあいさつ

今からちょうど100年前の大正12年、広介は編集者をしてしながら自らの作品を手掛けていました。その年、6月に弟を病気で失い、9月には関東大震災が発生し、勤め先の出版社が倒壊します。こうした出来事がきっかけで広介は童話作家として独立し、筆一本で歩むことを決意しました。

広介の生誕130年、没後50年である今年、童話作家として「一筋の道」を歩みはじめた頃の広介の心情を作品や関連資料を通してご覧ください。

浜田広介

1893(明治26)年

5月25日、山形県東置賜郡屋代村大字一本柳(現高島町)に生まれる。本名廣助。

1914(大正3)年 21歳

早稲田大学高等予科に入学。

1917(大正6)年 24歳

「大阪朝日新聞」の懸賞新作お伽噺に「黄金の稲束」が一等入選。

1918(大正7)年 25歳

7月、「ソログープ論」を書いて早稲田大学英文科を卒業。12月コドモ社に入社し、「良友」の編集者となる。

1921(大正10)年 28歳

8月、最初の童話集『棕鳥の夢』を新生社より刊行。

1923(大正12)年 30歳

実業之日本社に勤めるが、関東大震災を機に退社。以後、文筆一本で生きる決意をする。

1928(昭和3)年 35歳

1月、渡部トクと結婚。

1933(昭和8)年 40歳

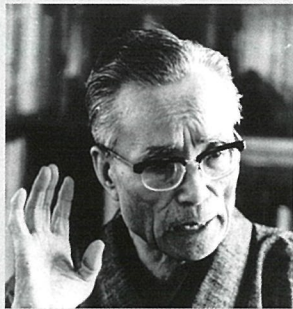
「おにのさうだん(=泣いた赤おに)」を発表。

1955(昭和30)年 62歳

日本児童文芸家協会の初代理事長となる。

1973(昭和48)年 80歳

11月17日永眠。

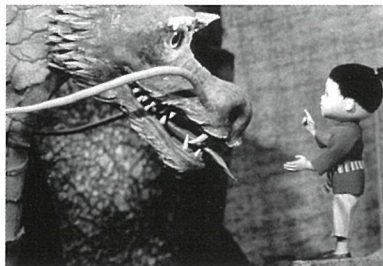


『大将の銅像』
大正11年実業之日本社発行



島崎藤村「励ましのことば」
大正8年10月13日消印

島崎藤村は広介の作品に期待し、励ましの言葉を贈ります。その2年後、広介は藤村の紹介で実業之日本社の出版部に勤め、この間に同社から第二童話集として『大将の銅像』を刊行しました。



『りゅうの目のなみだ』
浜田広介記念館マルチスライド

大正12年の作。
「まことの愛には、そのうらづけに勇気があるということ、この作は意味していきましょう」

『りゅうのめのなみだ』
昭和40年11月偕成社発行
「この絵本について」より
浜田広介

~むくどりギャラリーのご案内~

- ~9月22日 ひろすけ童話感想文・感想画全国コンクール特別入賞作品展
- 9月30日~10月22日 ひろすけ童話造形創作コンクール入賞作品展
- 11月3日~12月17日 ひろすけ童話賞作品展



まほろば・童話の里

浜田広介記念館

ホームページ <http://hirosuke-kinenkan.jp/>
山形県東置賜郡高島町大字一本柳2110番地
TEL. 0238-52-3838 / FAX. 0238-52-4588
E-mail hirosuke@town.takahata.yamagata.jp

